

## 第6回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」第2回運営委委員会議事録

2009/03/31 17:15 - 19:00 法政大学

参加者：荒井、布施、平川、吉見、三宅、 進行：荒井 記録：三宅 追記：荒井  
議題

### 1. 『市民社会レポート』

原稿収集状況と構成は以下のとおり。

<新構成>

はじめに (社全協 荒井) 要修正・校正

#### 総論

1. 日本社会のここ十数年の概況 (荒井) 完成・要校正
  2. 日本における「成人教育」「社会教育」概念 - 「成人教育」という枠組みに関して (常葉 - 布施、前平)
  3. ここ十数年の成人教育・社会教育施策の特徴 (荒井) ほぼ完成 - 要追記・校正 (博物館への言及 要追記)
- ~ 2と3を合わせる形で再構成 ~

#### 各論

##### [1] タイトル

1. 公民館 (社全協 荒井) ほぼ完成 要校正
2. 図書館 (日本図書館協会 山口・小林・高橋)
3. 高等教育と成人教育 (山本健滋、ほか - 要 常葉-布施さん原稿取りまとめ)
4. 社会教育関係職員の養成・任採用・研修について  
社養協の取り組みからの提言 (社養協 三輪・佐藤)

##### [2] タイトル

5. 平和のための学習 1980年代以降の歩みと課題 (社全協 谷岡)
6. 「健康学習」に関する動き (社全協 松下拡) - 荒井担当  
ワ - プロ化中 (要校正)
7. 識字教育 (日本社会教育学会 森) - 布施担当 補足依頼に返事なし
8. 夜間中学 (全国夜間中学研究会 - 関本) - 布施担当 執筆中
9. 環境教育 EDSに改めて、常葉-布施 小栗 (鹿児島大) - 未着
10. 開発教育と社会教育・成人教育 (開発教育協会 湯本)
11. 開発途上国における我が国の成人識字教育協力の現状と課題  
(教育支援国際 NGO 小荒井・三宅 (シャティ・ボランティア会))

##### [3] タイトル

12. 女性の学習とジェンダ - の視点からみた日本の社会教育政策・実践 (社全協 中藤)
13. 労働者の学習
  - 13.1. 労働者の学習 (社全協 大串 荒井による原稿化検討中)
  - 13.2. 企業内教育 (野口 アイル人材開発研総)
  - 13.3. 労働者の教育のための政府支援 (野口 アイル人材開発研総)
14. 移民労働者・民族的マイノリティの教育の現状と課題  
(日本社会教育学会 野元・日本語フォーラム全国ネット 横山・  
少数民族懇談会 清水) - 要追記・校正 (野元)
15. 障害をもつ人への学習文化支援の取り組みと課題 (社全協 小林繁)
16. 高齢者の学習 (日本社会教育学会 堀) 修正中 - 常葉-布施さん担当

## 「草の根会議」メンバー諸団体の紹介

日本公民館学会（手打）  
日本図書館協会（松岡）  
全国社会教育職員養成協議会（佐藤）  
日本社会教育学会（布施）  
社会教育推進全国協議会 - これから（荒井）  
『月刊社会教育』 - これから（荒井）  
教育協力 NGO ネットワーク - これから（三宅）

---

以上が荒井さんから報告され、以下を議論した。

- ・ II 各論の章のグループのタイトル：タイトルはつけないが、グループごとの区切りを明確にする。
- ・ 夜間中学の章の場所等、構成も含めて、最終的には、荒井さん、布施さんに一任する。
- ・ 構成案の II 各論のグループ 2 と 3 の順番は当初案のとおりに戻す。
- ・ III の団体紹介：A4 で 1 枚程度、連絡先をなるべく入れる。
- ・ 最終原稿案について、意見が対立した場合、「はじめに」で、市民社会組織の統一した見解ではないこと、今後の議論の出発とすること、を触れておく。ただし、対立点が何かは明示しない。

## 2. 全体の原稿まとめ・意見徴収期限

- ・ 4 月 3 日に最終原稿案を参加団体に送る。間に合わない原稿は後日後送。
- ・ 意見徴集願いは、内容面は時間制約のため反映されにくいので、事実誤認、誤字脱字について主に意見をいただくよう、願います。内容面の議論は、今後行うことを伝える。
- ・ 6 日中に、返事をもらい、原稿を修正する場合、8 日までに全員に送る。
- ・ 意見をもとに、編集をし、9 日に印刷
- ・ 団体紹介原稿もできるだけ 6 日までに、遅くとも 8 日までに荒井に送付する。

## 3. 文科省との意見交換会 段取り

- ・ 4 月 10 日会合への手紙、提言の内容
  - 会議での公約の実施状況モニタリングメカニズムの構築
  - 予算措置 6 %、成人教育予算の集約の必要性
  - 政府の成人教育の説明責任として識字の実態調査の実施
  - ハイレベルの代表
  - 本会合中の会議設定

を内容とする文部大臣宛の手紙の案を三宅が作り、今日の会議の議事録とともに、案を送る。

## 4. 英訳および出版

- ・ 「未来のための教育推進協議会」から 10 万円は支援できる。
- ・ 印刷業者、納品日、見積りを三宅が聞き、荒井さんがスケジュールを決める。150 ページ。
- ・ 英訳は、簡略化してもよい。ただし、ブルーフも含めて団体が責任を負う。
- ・ 本会合に参加される方に手分けして持って行ってもらう。

5 英訳の段取り 荒井と布施さんとの調整し、みなさんに連絡する。

期限

集約方法

6 UIL への送付の段取り 送付期限は・・・(布施、三宅、荒井で調整中)

7 ベレンでの配布方法 (4 月 10 日に連絡調整会議をもてれば - 10 参照 - そこで調整と e メールで)

8 本会議参加者の会場での活動連携など

(4月10日に連絡調整会議をもてれば - 10 参照 - そこで調整とeメールで)

9 本会議後の活動(4月10日に連絡調整会議をもてれば - 10 参照 - そこで調整とeメールで)

10 次回「草の根会議」第5回会合または運営委員会第3回の予定

別に時間が取れないので、4月10日の文科省開催予定の会議のあと、その日、その場で連絡調整の会議をもてるかどうか、検討する(連絡はeメールで)。

なお、昨日の運営委員会後、相談をし忘れていたことの気づき、常葉-布施美穂さんと荒井で、記名について、とりあえずの確認を以下のようにしました。

1 原則 執筆箇所についてはそれぞれの末尾に(団体名 執筆担当者名)を書く。

荒井が全体を調整するとき、特に支持がないものはこのような表記で統一させていただきます。

2 執筆者、執筆団体から特に異論があれば、間に合う場合には回覧前に、間に合わない場合には、8日の最終修正原稿送付時まで、荒井に連絡してもらう。